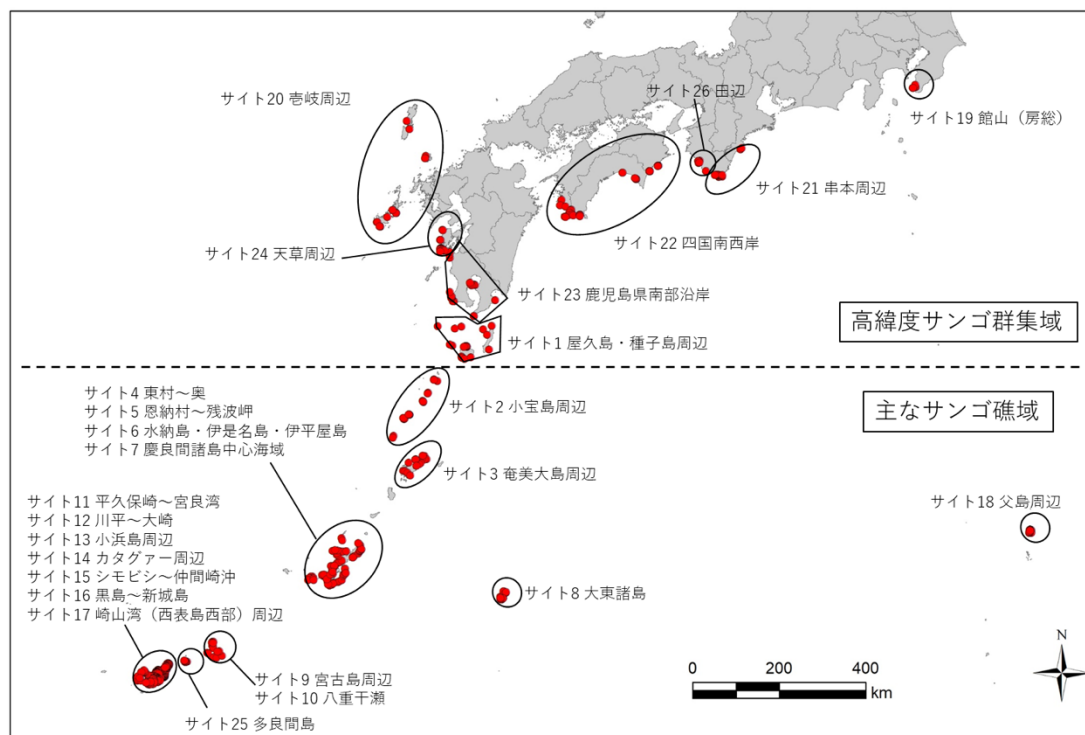


モニタリングサイト 1000 サンゴ礁調査

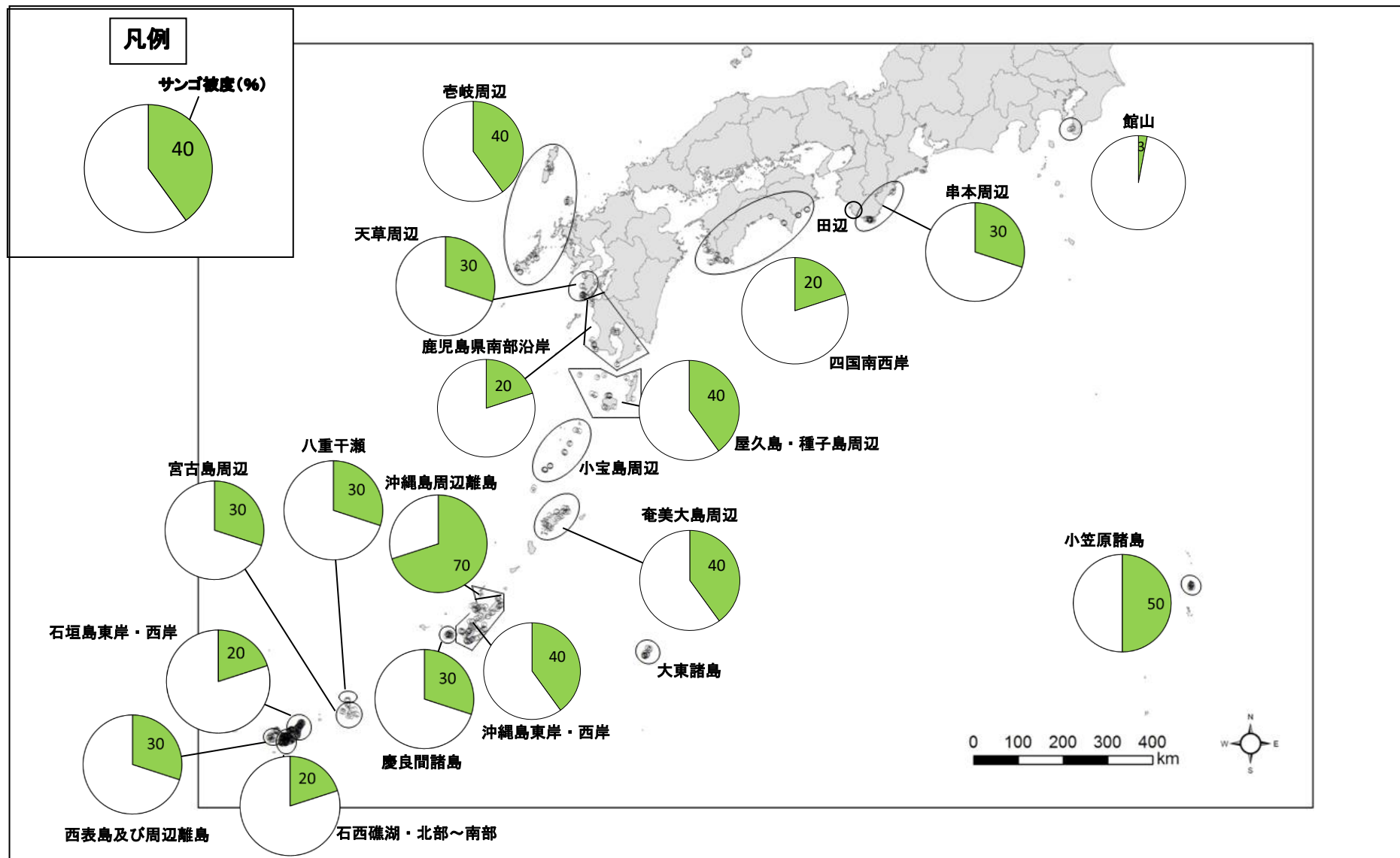
2023 年度とりまとめ結果

モニタリングサイト 1000 サンゴ礁調査では、サンゴ礁の発達する「主なサンゴ礁域」とサンゴ群集が生育する「高緯度サンゴ群集域」に 26 の調査サイトを設置し、これらのサイトで毎年サンゴの調査を行っています（小宝島周辺、大東諸島、多良間島周辺、田辺の 4 つのサイトは、5 年に 1 度の調査です）。

ここでは、2023 年度の調査結果の概要をお知らせします。



モニタリングサイト 1000 サンゴ礁調査 サイト位置図



モニタリングサイト 1000（サンゴ礁調査）における 2023 年度の各地の平均サンゴ被度（%）

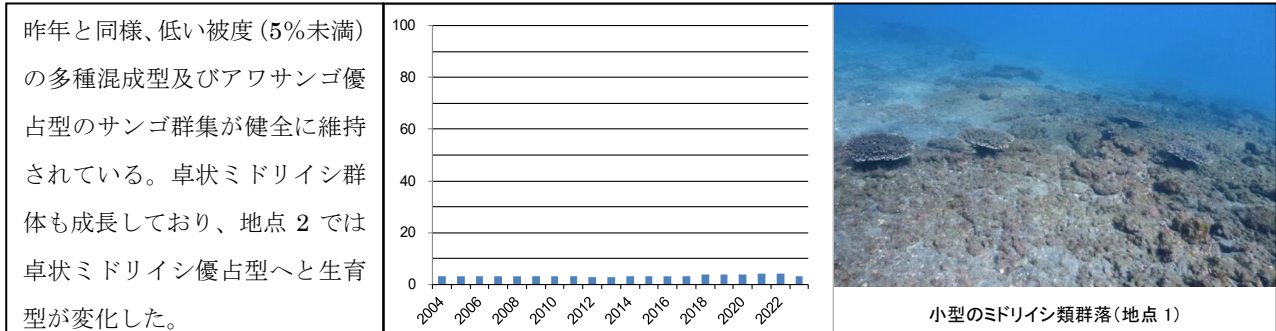
各サイト及び海域の概況

高緯度サンゴ群集域

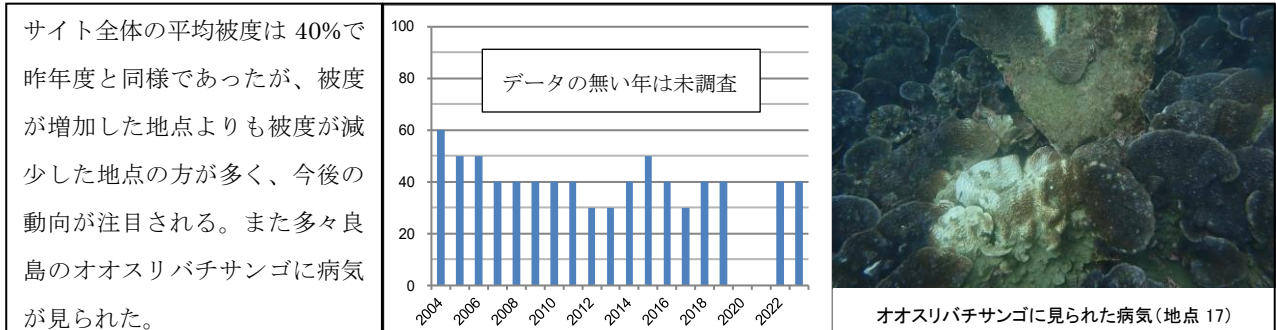
モニタリングサイト 1000 サンゴ礁調査では、サンゴ礁を形成しない温帯域のサンゴ群集分布域のことを「高緯度サンゴ群集域」と呼び、屋久島とトカラ列島の間を境界にしてそれより北側の館山（サイト 19）から屋久島・種子島周辺（サイト 1）までの 8 サイトとなります。今年度は、田辺（サイト 26）を除いた 7 サイトで調査を実施しました。今年度は高緯度サンゴ群集域では大きなかく乱はほとんど見られず、白化現象やオニヒトデによる被害は一部の地点で見られたのみでした。

なお、グラフは各サイト又は海域の平均サンゴ被度（%）を 10% 刻みで表示したものです。

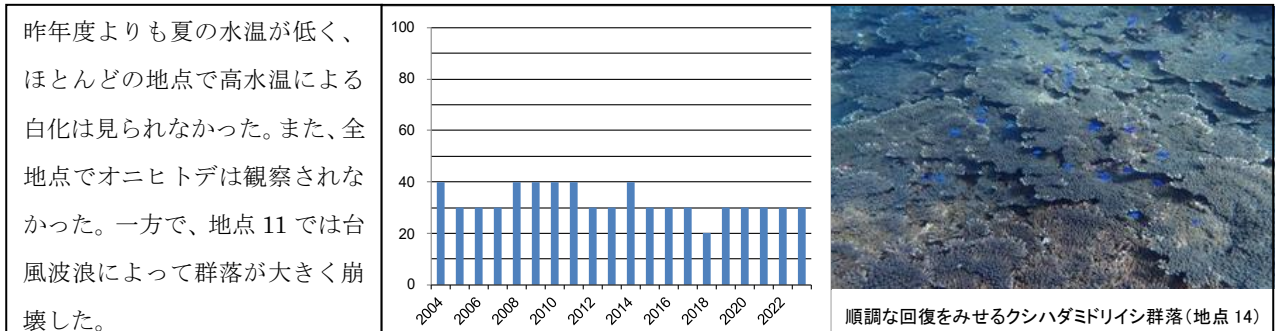
館山(サイト 19) 調査代表者:お茶の水女子大学・清本正人



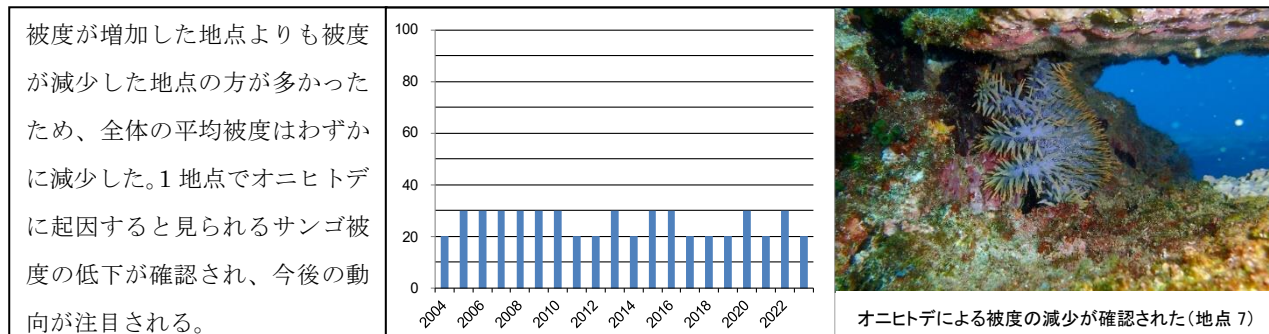
壱岐周辺(サイト 20) 調査代表者:自然環境研究センター・北野裕子



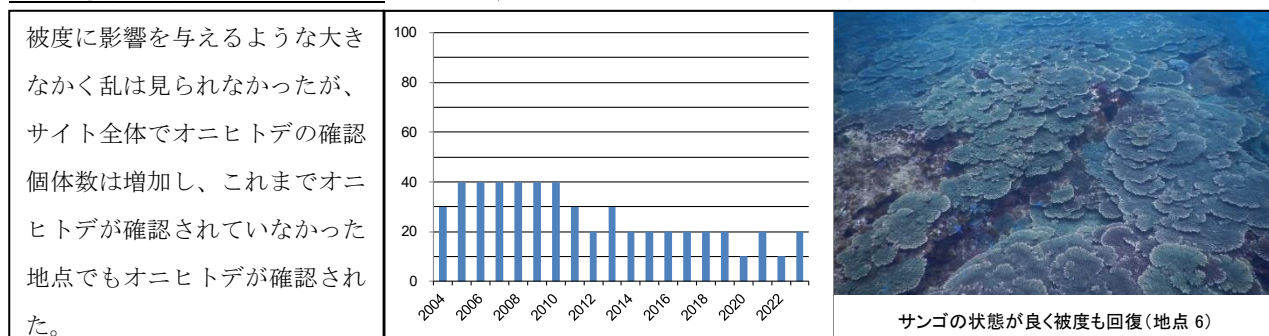
串本周辺(サイト 21) 調査代表者:串本海中公園センター・森美枝



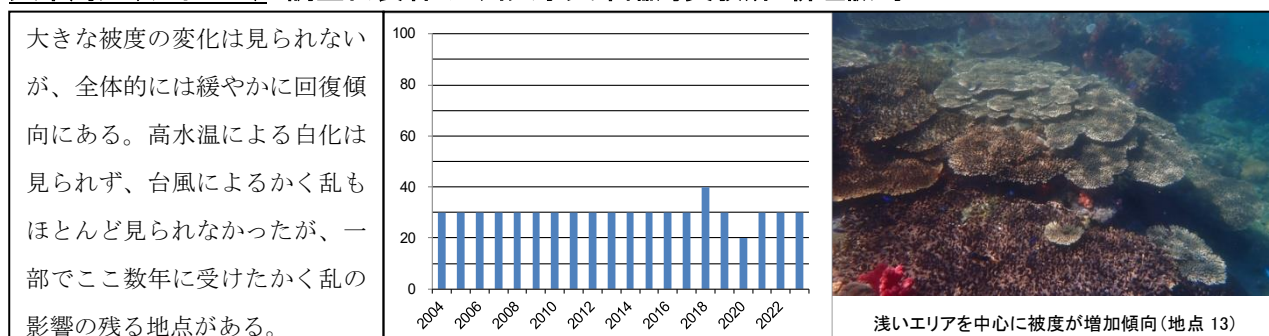
四国南西岸(サイト 22) 調査代表者:黒潮生物研究所・目崎拓真



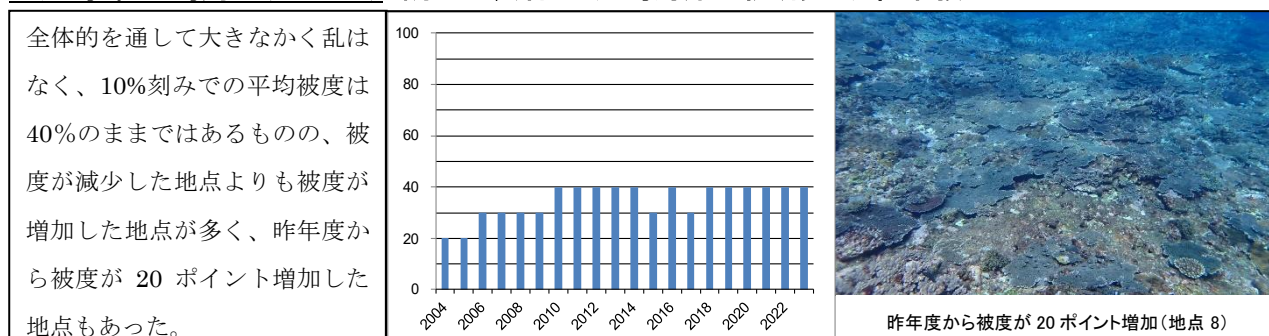
鹿児島県南部沿岸(サイト 23) 調査代表者:ダイビングサービス海案内・出羽慎一・出羽尚子



天草周辺(サイト 24) 調査代表者:九州大学天草臨海実験所・新垣誠司



屋久島・種子島周辺(サイト1) 調査代表者:屋久島海洋生物研究会・松本毅

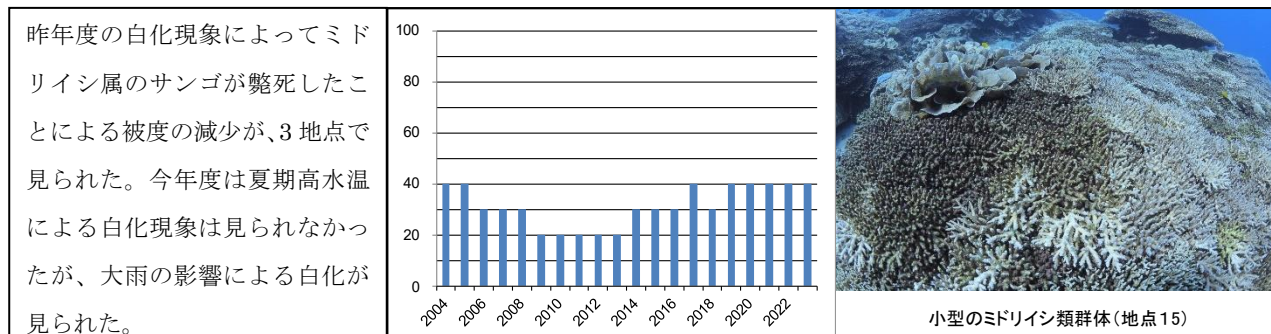


主なサンゴ礁域

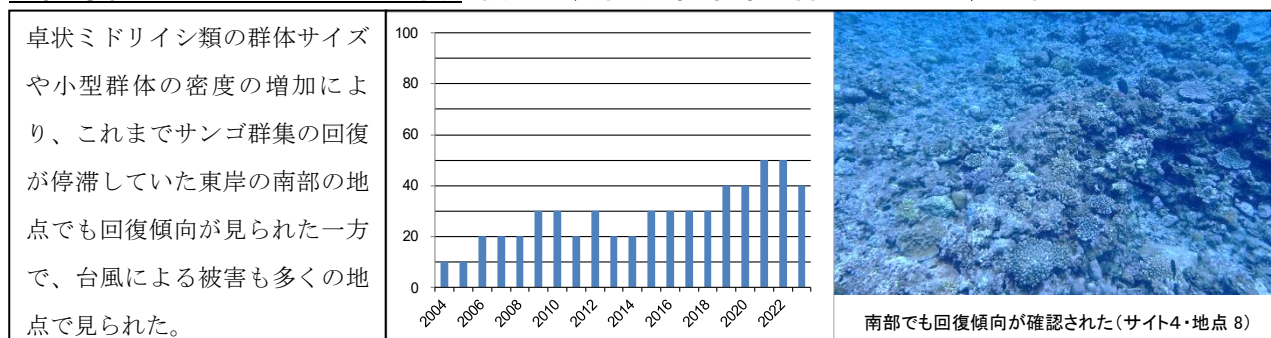
主なサンゴ礁域とは、サンゴ礁を形成する亜熱帯域を指し、モニタリングサイト 1000 サンゴ礁調査では、小宝島周辺（サイト 2）以南の 18 サイトとなります。今年度は、毎年調査を実施する 15 サイトで調査を実施しました。今年も夏の高水温による白化現象がみられた地点もありましたが、死亡率は低い結果となりました。一方で台風の波浪でサンゴ群集に影響を受けたサイトが複数見られました。

なお、グラフは各サイト又は海域の平均サンゴ被度（%）を 10% 刻みで表示したものです。

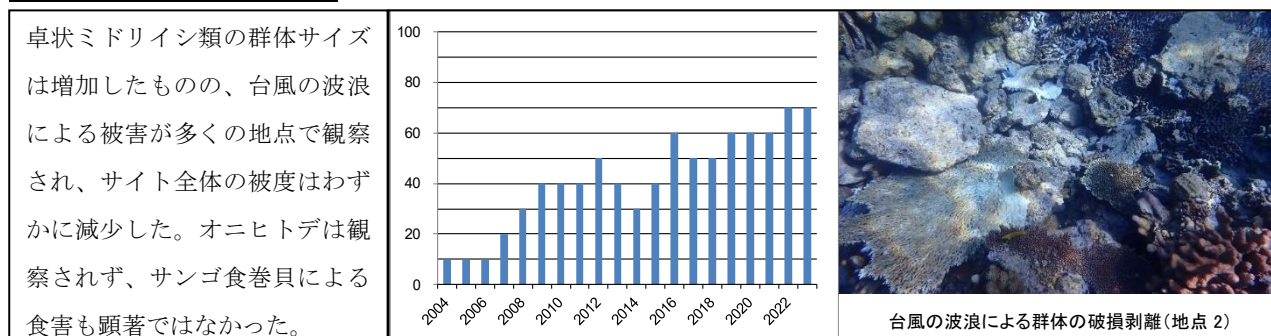
奄美大島周辺(サイト3) 調査代表者: ティダ企画有限会社・興克樹



沖縄島東岸・西岸(サイト4～5)海域 調査代表者: 沖縄県環境科学センター・長田智史

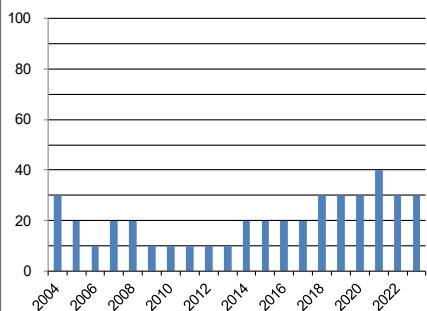


沖縄島周辺離島(サイト6) 調査代表者: 沖縄県環境科学センター・長田智史



慶良間諸島(サイト7) 調査代表者:熱帯海洋生態研究振興財団・比嘉幹彦

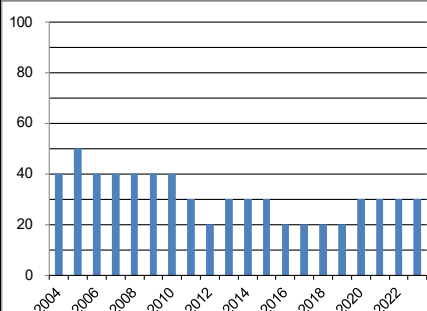
夏期高水温による白化現象は見られず、オニヒトデも観察されなかった。一方で被食率は5%未満ではあるものの、サンゴ食巻貝はほとんどの地点で確認され、台風による被害も全地点で見られた。



サンゴ食巻貝による食痕(地点8)

宮古島周辺(サイト9) 調査代表者:宮古島市教育委員会・梶原健次

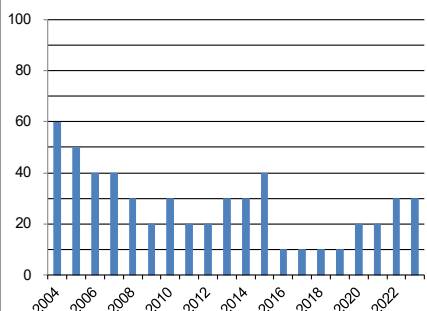
ミドリイシ類の成長により被度の増加した地点が複数見られ、サイト全体でも被度はわずかに増加した。夏期高水温による白化は見られなかったが、台風被害によると思われる被度の減少が見られた地点もあった。



波浪によって破壊された葉状モモンサンゴ(地点4)

八重干瀬(サイト10) 調査代表者:宮古島市教育委員会・梶原健次

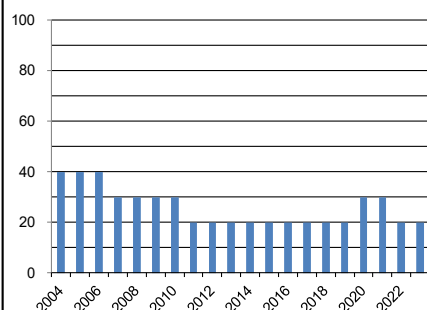
台風による波浪が原因とみられる被度の減少が見られた地点があったものの、稚サンゴの加入が多く見られ、近年中に回復する可能性がある。夏季高水温による白化やサンゴ食生物によるかく乱は確認されなかった。



固着基盤ごと剥がれて転落したミドリイシ類(地点1)

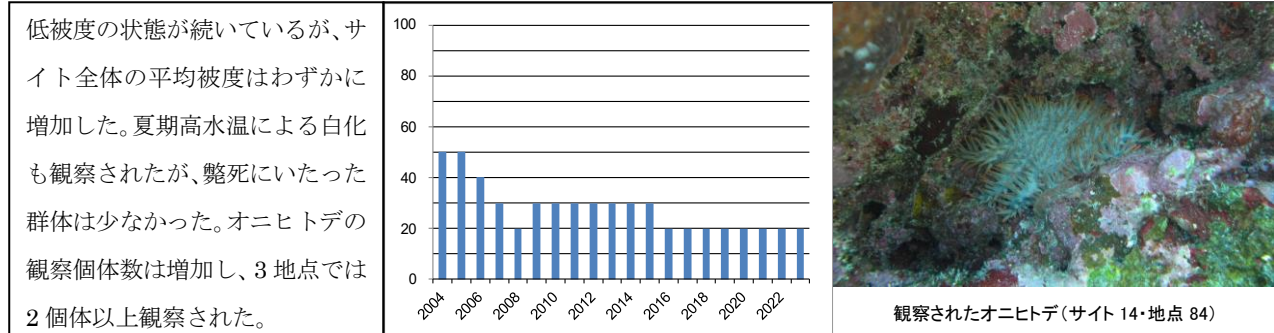
石垣島東岸・西岸(サイト11、12)海域 調査代表者:有限会社海游・吉田稔

サンゴの被度が減少するような大きなかく乱は確認されなかった。被度が減少した地点よりも増加した地点の方が多く、全体的には回復傾向ではあるものの低被度の状態が維持されている。

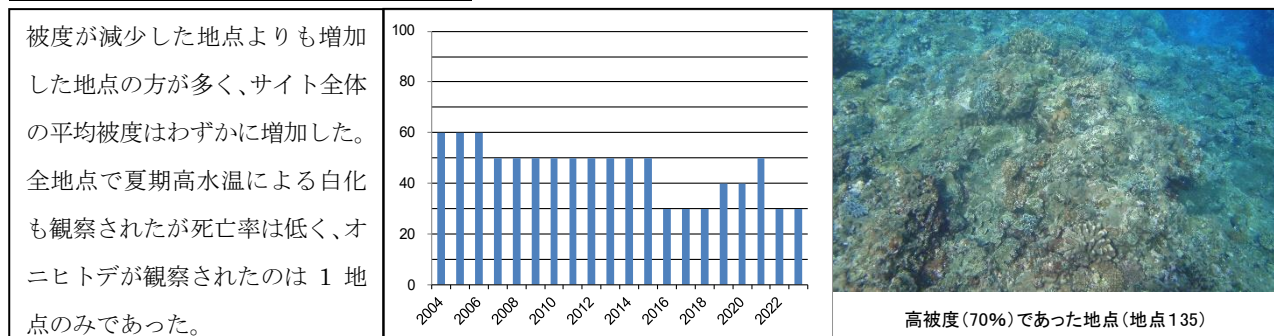


サンゴ食巻貝による食痕(サイト12・地点12)

石西礁湖北部～南部(サイト 13～16)海域 調査代表者: 自然環境研究センター・北野裕子



西表島及び周辺離島海域(サイト 17) 調査代表者: 自然環境研究センター・北野裕子



小笠原諸島(サイト 18) 調査代表者: 小笠原自然文化研究所・佐々木哲朗

